

V. 結 言

定量分光分析の鉄鋼への実用化に就ては国内の各所に於ても種々検討され一部日常作業に適用されている様であるが、この実用化に当つては精度の問題も勿論あるが撮影測定が如何に容易であつても日常多数の試料を処理する生産工場に於ては、その試料の採取及び調製を迅速簡易に行い得ることが絶対必須の条件であり、特に試料の採取に関しては現場作業員に依頼することが多

い為に複雑な操作では永続性がない。依つて筆者等はこれ等の点を勘案して試料の採取並びに調製法を検討し、2,3の改良を加へ現在当所に於て行つている方法に就てその概要を報告した。終りに本研究の発表を許可せられたる株式会社日本製鋼所取締役兼室蘭製作所々長皆川孝光氏に謝意を表すると共に御懇篤なる御教示を賜つた技師長泉谷彌一氏に深く感謝する。尙本実験に熱心に協力された研究部中山勝美君に厚く御礼申上げる。

(昭和 29 年 3 月 寄稿)

新しくきまつた JIS (鐵鋼關係)

第 60 回標準會議で可決

G 1226	鋼および銑鉄のスズ分析方法	新
G 1227	鋼および銑鉄のホウ素分析方法	新
G 1228	鋼および銑鉄の窒素分析方法	新
G 1229	鋼の鉛分析方法	新
G 1230	鑄鉄のマグネシウム分析方法	新
G 3306	冷間圧延薄鋼板	新

昭和 29 年 5 月号正誤表

頁	行	誤	正
500	右 13 及び 14	重 土	重 さ
"	" 21	6° 及び 50°C/min	6° 及び 20°C/min
578	表 の 下	581 頁よりつゞく	579 頁よりつゞく
579	下 1	以下 580 頁へつゞく	578 頁へつゞく
□ (表 彰 繪 者)	中 の 右 端	第16回香村賞金受領者須賀利一君	第16回渡辺賞金受領者須賀利一君